

かざぐるま

ひと 未来 輝いて

2015 MARCH

NO. **94**



紐雛（ひもびな）・花ストラップ・ハッピーシェルなど
※サポートセンターういんず（河北町）で製作・販売中

特集

創立50周年記念式典

トピックス

平成26年度健康運動セミナー

平成26年度北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会・職員研修Ⅱ

平成26年度施設実践報告会

レキシコン 「生活困窮者自立支援法」

ホームページリニューアルのお知らせ

創立50周年
これからも ともに

創立50周年記念式典



早春の山形市

一日一日の積み重ねが50年の歩みに



理事長式辞

ひと 未来 輝いて。この思いのもと、利用者のために紡いできた支援の輪は広がり続け、当初100名余りであった利用定員数は、現在1,700名を超えるまでとなり、そして、一日一日の積み重ねが、振り返れば50年の歩みとなって、大きな歴史として刻まれました。

これを記念し、平成26年12月5日、パレスグランデール（山形市）にて、創立50周年記念式典を開催し、当日は、雪が降りしきる中でしたが、120名余の方々からご参加いただき、当事業団の歩みを支えてくださった方々が一堂に会し、終始和やかな雰囲気の中、創立50周年という大きな節目を共に祝うことができました。

多くの方に支えられて

式典は二部構成で行われ、一部は記念式典となり、吉村美栄子山形県知事、鈴木正法山形県議会議員、そして全国社会福祉事業団協議会水野和彦理事長のお三方からご祝辞を賜りました。また、これまでお力添えいただいた方々に対して、感謝状贈呈をもって御礼をさせていただきました。

その後、当事業団の歩みをまとめた記念DVDを上映。半世紀にわたる映像の中には、それぞれの時代を刻んだ懐かしい写真もあり、これまでの歴史を改めて振り返ることができました。（記念DVDは法人ホームページにて公開しております）

二部の祝賀会では、中山順子山形県健康福祉部長の乾杯のご発声で祝宴は始まり、当事業団の歴史を担ってこられた方々が、時や世代を越えて交流し、アトラクションでは、東北芸術工科大学和太鼓「太恵」の皆様による勇壮な太鼓の演奏が祝賀会に花を添えていました。そして、山形県社会福祉協議会青山永策会長の力強い万歳三唱により終宴を迎えました。誰もが次なる50年の力強い歩みを思い描きながら、万歳のご唱和をいただけたのではないかと思います。



感謝状贈呈



感謝状贈呈者の皆様。今までのご協力に感謝申し上げます

これからの50年……

平成12年の社会福祉基礎構造改革以降、福祉サービス事業所は、利用者から選ばれる存在になりました。また、最近では「社会福祉法人」を取り巻く環境も大きく変化しております。さらに、当事業団が現在指定管理者として運営している県立障がい者6施設が、平成28年度に県から移譲されることとなり、さらに自律的な経営が求められる時代となります。

こうした変化の激しい時代にあっても、当事業団の特性「先駆性、専門性、広域性及び事業・人材の多様性」を活かしつつ、これからも地域社会や利用者のための事業運営に努めて参ります。



東北芸術工科大学の和太鼓「太恵」の皆様による力強い演奏



創立50周年記念式典会場



全国社会福祉事業団協議会理事長
水野和彦様からのお祝辞

平成26年度健康運動セミナー

笑って動いて元気が一番！

当事業団では、サービスを利用される方々が、いつまでも元気で生きがいのある生活を送っていただけるように、各施設あげて健康づくり実践に取り組んでいます。

これを企画・運営している当事業団のリハビリテーション委員会・健康運動部会では、毎年「健康運動セミナー」を開催しており、今年度は、「笑って動いて元気が一番」をテーマに、2月24日、山形市保健センター（霞城セントラル3階）を会場に実施しました。講師には、宮城大学助教の赤間由美先生と、東北福祉大学特任准教授の鈴木玲子先生に来ていただきました。

そして、今年度も地域貢献の一環としつつ、ネットワーク作りも兼ねて、関係機関にも参加を呼びかけたところ、14名の参加申し込みがあり、当事業団内の参加者と合わせて51名の参加となりました。



赤間由美先生（中央）

いつでもどこでも楽しく運動！

赤間先生からは、「福祉従事者のメンタルヘルスについて～明るく元気な利用者支援を目指して～」をテーマに講義と演習をしていただきました。職場のストレスの仕組み（NIOSH職業性ストレスモデル）やメンタルヘルスのためには、運動が効果的であることを具体的なデータを示してお話いただきました。

鈴木先生は、宮城県内の被災地を回ってのレクリエーション実施もされており、先生曰く、「被災地では、条件が



鈴木玲子先生

整うことを待つのではなく、今ある物、今できる場所、今の環境で（運動を）行わなくてはいけません。」とのこと。ロコモティブシンドローム（運動器症候群／略称：ロコモ）※予防のために先生が考案された運動「ロコモ体操」など、いつでもどこでもできる運動を実技を交えてお話いただきました。

施設利用者はもとより、誰にとっても介護予防や疾病予防は重要な課題ですが、どんな取り組みも、楽しくなければ継続しません。お二人の先生から、運動の重要性と楽しく運動するための方法を学ぶことができたセミナーとなりました。

ロコモティブシンドロームとは……

骨、筋肉、関節といった運動器が衰えている状態（衰え始めている状態も含む）のことを言う。平成22年度の日本人の平均寿命は82.92歳だが、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間である「健康寿命」は72.02歳で、平均寿命と健康寿命との間には10歳程度の開きがある。そして、健康寿命を縮めている要因の一つとしてロコモティブシンドロームがあるとされている。介護が必要になった原因の第1位（平成22年度国民生活基礎調査）がロコモであり、ロコモの予防は、健康増進法に基づき策定された「健康日本21（第二次）」において、重要な位置付けとして明記されている。

平成26年度 北海道・東北ブロック 社会福祉事業団連絡協議会・職員研修Ⅱ

世界的な福祉の潮流の中で……

平成24年10月1日に障害者虐待防止法が施行され、2年以上が経過しましたが、その間にも、障害者差別解消法が成立（平成25年6月）し、平成28年から施行されます。そして、これらはいずれも平成18年（2006年）、国連総会において障害者権利条約が採択され、日本も平成26年に同条約に批准したという世界的な流れが背景にあります。

平成27年2月26日～27日に、山形市のホテルキャッスルを会場に、標記研修を当事業団の担当で開催しましたが、福祉施設を運営する私たちは、こうした世界的な福祉の潮流の中で、障がい者の権利擁護はいかにあるべきかとの思いから、全国権利擁護支援ネットワーク代表の佐藤彰一先生を講師に招き、ご講演をいただきました。



佐藤理事長挨拶（開催担当事業団）

権利擁護は多くの人がたずさわることで実現するもの

権利擁護の要素は3つ。ご本人の尊厳、ご本人にとっての最善の利益、そして連帯性。先生の言葉は続きます。

人は、一つのことにフォーカスすると目の前で起こっていることすら見えなくなってしまうんですよ。冷静な判断ができなくなる。だから、できるだけ多くの人が支援に関わる必要があります。先生は、権利擁護を実践するには、特にそのことを自覚することが重要であると強調して語られました。つまり、一人の人間の力の限界を自覚したうえで、どのように権利擁護を実践していくか。



佐藤彰一先生

全国権利擁護支援ネットワークの代表であり、同時に、弁護士で國學院大學教授でもおられる先生から、法律の解釈や福祉施設という組織の在り方、職員の支援技法などについて、多彩な切り口から具体的かつ明快な話を聴くことができました。

利用者一人ひとりに、より良い福祉サービスを提供し続けていくために、権利擁護に係るスキームを整備するだけでなく、そのスキームを実際に使えるものとするのが重要であること、また、職員が利用者の代弁者として専門性を追求し続けることが大切であることを学ぶことができた研修となりました。

平成26年度 山形県社会福祉事業団 施設実践報告会

～研究推進事業 実践研究・福祉QCの取り組み～



受賞者記念撮影

今年度の集大成を！

平成27年2月18日、一年間の取り組みの集大成である実践研究・福祉QCの実践報告会を開催しました。今年度は当事業団内の15施設から応募があり、その中から6施設が発表施設として選ばれ、報告がなされました。

朝から降りしきる雪で外は寒さが厳しかったものの、会場内は発表に対する質問や意見交換が活発に行われ、熱気を帯びていました。

職種を越えて学びあう場、実践報告会

「ノウハウ（個人の支援上の経験）は重要な資源であり、共有することで組織は活性化し、サービスの質は向上します。」「実践報告会のように職種を越えて学びあう場は大変貴重です。」

助言者として東北公益文科大学准教授である武田真理子先生を迎え、発表について講評と助言をいただきました。先生からは研究を進める上での具体的なアドバイスもいただき、大変有意義な報告会となりました。

そして、毎年、参加者全員の投票によって最優秀賞を選んでいます。今年度は、障害者支援施設吹浦荘と障害者支援施設総合コロニー希望が丘ひめゆり寮の発表に決定しました。参加者からは、「取り組みが非常に参考になった」、「自分の施設でも取り入れていきたい」などの意見が多く出されました。



実践報告を発表している様子

専門性に裏打ちされた支援の大切さ

より良いサービスを提供し続けていくためには、専門性に裏打ちされた支援が重要であり、とりわけ、それを支えるものが、エビデンス（根拠）に基づいた実践の積み重ねです。そして、その日々の取り組みを検証し言語化してまとめたものが、実践研究となります。

【平成26年度施設実践報告会発表施設一覧】

施設名	題名
障害者支援施設 希望が丘しらさぎ寮	強い行動障がいのある重度障がいの受け入れに向けての取り組みについて
障害者支援施設 希望が丘ひめゆり寮	ひめゆり寮全員で考えよう ～サービスの質の向上を目指して～
障害者支援施設 吹浦荘	地産地消をかねたケア食 ～食育～
特別養護老人ホーム 福寿荘	職場の健康づくり事業「マイマイプラン」の取り組みについて
障害者支援施設 慈丘園	快適な生活の支援を目指して ～重度化・高齢化に伴う排泄支援を考える～
特別養護老人ホーム 寿泉荘	寝てばっかりいらんね！

データ化や図表化による客観的な判断を活用し、業務を改善する福祉QCとあわせ、今後も法人として研究推進事業を活性化していきたいと思ひます。

～発表内容の概要～

●ひめゆり寮

ひめゆり寮には居住ゾーンとして4つのファミリーがあります。ファミリーごとに組み立てられている支援状況を全ての職員で考え、互いの長所を確認しながら寮全体のサービスの向上を目指しています。

具体的にはアンケートを活用して他のファミリーの「良い点」と「改善すべき点」を評価し改善に取り組みました。その後、モニタリング(自己評価および他己評価)をして変化を確認し、全体で共有化を図りました。



後藤常務理事より表彰状の授与



参加者からの質問

●吹浦荘

「食べる事は生きる事の基本」という概念のもと、利用者が好き嫌いなく、食事が一番の楽しみになり、毎日健康で過ごせることをねらいとして、関係する職種が連携して取り組みを行いました。

食事内容に工夫を凝らすだけでなく、メニューのプレゼンテーション、食材や衛生面の研修などを行い、利用者の健康に対する意識の高揚を図るとともに、健康状況・意識の変化を記録し、生活改善に結びつけました。

※発表施設以外の施設の実践報告についても、後日、当法人ホームページに掲載します。

レキシコン

生活困窮者自立支援法施行

平成27年4月1日に、生活困窮者自立支援法(平成25年法律第105号)が施行されます。どのような法律で、どのようにできたのでしょうか? 社会保障制度改革推進法(平成24年法律第64号)によれば、生活困窮の世代間連鎖の防止や就労支援などを謳った生活保護制度の見直しの中でまとめられた法律です。

法律の意義は?

「生活保護に至っていない生活困窮者に対する“第2のセーフティネット”を全国的に拡充し、包括的な支援体系を創設するもの」と謳われており、目標は、①生活困窮者の自立と尊厳の確保と、②生活困窮者支援を通じた地域づくりにあるとしています。つまり、①本人が自立しようとする気持ちに支援員が寄り添いながら、経済的自立・日常生活自立・社会生活自立を支援すること、②地域で「相互に支え合う」ネットワークを構築し、社会資源を創造していくこととしています。

具体的な支援方法は?

必須事業として、福祉事務所設置自治体が直営または委託により「自立相談支援事業」を実施するとありますが、「自立相談支援事業」では、主任相談支援員、相談支援員、就労支援員の三職種を配置するとあり、その三者が相談窓口となり、アセスメント・支援会議の調整および支援ネットワークの構築・自立生活のためのプランの作成等を行い、総合的に支援を行っていくものとされています。

※当事業団では、平成27年4月から「相談支援事業所ういんず」において西村山郡の4町(河北町、西川町、朝日町、大江町)を対象に「西村山地域生活自立相談支援事業」を実施する予定です。

ホームページ リニューアルのお知らせ

この度、当事業団ホームページをリニューアルし、各施設での職員募集欄を設けました。
 なお、平成28年4月1日採用に関する募集案内（正規の試験）についても、決定次第ホームページに掲載いたします。

山形県社会福祉事業団ホームページ
 URL <http://www.ysj.or.jp/>



■ 求人情報	
看護師 契約職員募集【勤務地：〇〇市】	
申込期間	随時
職種	看護師
雇用形態	正規職員以外年度毎更新
勤務先(施設名)	特別養護老人ホーム 〇〇〇
連絡先TEL	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
勤務地(住所)	〇〇市
雇用期間	雇用期間の定めあり 平成27年4月1日～平成28年3月31日 契約更新の可能性あり(原則更新)
年齢	不問
勤務時間	8:30～15:30(1日6時間・週30時間) 勤務時間帯については、相談に応じられる場合もあります。
休憩時間	60分
時間外勤務	ございません。
夜間勤務・宿直	ございません。
給与	

～求人情報のお知らせ～

トップページの「求人情報」から右のページに進むことができます。
 雇用形態や期間など詳細情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください!!

「ひと 未来 輝いて」。このキャッチフレーズに私たち職員の願いが込められています。
 当事業団では地域福祉・在宅福祉を含めた社会福祉の総合的な事業を展開しています！
 様々な福祉分野のフィールドであなたの力を発揮してください。

かけ流しの温泉でゆったりのおんびり疲れを癒す

手作り料理にきっと満足!

1泊2食付き

60歳以上の方・母子(寡婦)・
 身体障がい者の方

5,350円 (税込)
 【一般の方6,280円(税込)】

- ◎料金の詳細についてはお気軽にお尋ねください。
- ◎送迎サービスは庄内地区宿泊7名様からご相談に応じます。

さまざまな楽しいイベントも企画しておりますので、
 お気軽にお問合せください。

寿海荘ホームページアドレス <http://www.jyukaiso.jp/>
 ご意見はメール info@jyukaiso.jpまでお願いいたします。

山形県福祉休養ホーム **あつみ温泉 寿海荘**

〒999-7204 山形県鶴岡市湯温泉字湯之里88-1

お問い合わせ(ご予約)
0235-43-4173

寿海荘

